

社会科学習指導案

神辺町立御野小学校 指導者 渡辺 圭子

1. 学 年 第4学年2組 25名

2. 単元名 なくそうこわい火事

3. 単元設定の理由

- 4年生の学年における目標は、「地域における社会的事象を具体的に観察し、地図や各種の資料を効果的に活用することができるようにするとともに、社会的事象の特色や相互の関連について考えることができるようにする。」である。その中で、「地域社会において、火災、交通事故、盗難などの災害や事故から人々の安全を守るため、関係の諸機関が相互に連絡を取り合いながら緊急に対処する体制をとっていることを見学したり調べたりして、人々の安全を守るための関係機関の働きとそこに従事している人々の工夫や努力について理解できるようにする。」ことが大切だと考える。
火災は、不注意から起こることが多く、いったん火災が起きると、生命や財産を脅かす恐ろしい災害である。そのため、消防署を中心にして、施設設備の整備や点検、訓練、広報活動などに取り組み、火災の予防や発生時に対する備えをしている。また、火災発生の緊急時においては、関係の諸機関が相互に連絡を取り合いながら、消火や救助に当たるなど、一刻を争って事態に対処している。さらに、地域にも様々な消火設備や組織があり、人々が協力して自分たちの町を火災の被害から守る工夫や努力をしている。これらのことを通して、地域の消防署などの関係機関に従事する人々が相互に連絡を取り合いながら協力して活動し、火災から人々の安全を守る工夫や努力をしていることをとらえ、地域社会の成員としての自覚を持たせていくため本単元を設定した。
- 本学級の児童は、これまでごみの処理の仕方や水道などについて教科書や家庭での聞き取りを中心に調べ学習をしてきた。興味・関心や調べ学習は個人差が大きい。約1割の児童は自らの確にインターネットや教科書,資料集などで調べ,まとめることができるが、ほとんどの児童は資料を集めることはできても自分の言葉で表現したり、必要な資料が取捨選択したりまとめたりすることがむずかしい。昨年度行った到達度学力検査(CRT)においては、すべての項目において全国平均を上回っているが、個人差は大きい。社会的な思考・判断、観察・資料活用 of 技能・表現においては、土地の利用など複数の事象を関連づけて考えることができにくかった。また、八方位やグラフのきまりを十分理解していない実態があった。
子どもたちは、火災発生時に、119番に電話をすると消防自動車や消防署の人々が来て消火に当たることを当然のことと考えている。また、テレビや新聞などで、火災について知っているが、火災を身近なこととしては感じていない。学校や地域（各家庭も含め）の各所に消火器や消火栓、防火水槽などが設置されていることにも、それほどの関心を持ってはいない。さらに、火災が起きたときの発見、119番への通報から消火活動が行われるまでの関係機関を含めた組織的な活動などを知る子どもはいない。
- 指導にあたっては、新聞記事やテレビのニュースを通して、火災の原因や被害の規模からその怖さや大変さを感じ取り、火災を身近なこととして感じさせたい。そして校内や自分たちの生活している地域の防火施設の観察や消防署の見学を通して、火災から人々を守るため、関係諸機関が相互に連絡を取り合って火災防止の対策を立てたり、火災発生に備え、緊急に対応できる訓練をしたりしていることを理解させたい。さらに、安全な生活をするための、町民としての協力の仕方を考える態度を養いたい。そのために、視点を明確にして、校内や地域の防火施設の観察や深安消防署の見学をし、施設の構造や設備、車両や機材、署員の仕事の様子を具体的に観察させたい。また、消防署の見学をもとにしながら、学校や地域の防火施設の様子、火災発生時に短時間で出動できる理由、関係機関の相互協力体制等を一人一人の子どもの興味・関心や考え方に応じて追求させたい。子どもたちの疑問を**その都度立ち止まりながら解決**させ、**子どもから生まれる新たな問い**を大切にしていきたい。そして、これらの学習を通して、地域の安全を守ることの大切さを感じ取らせたい。

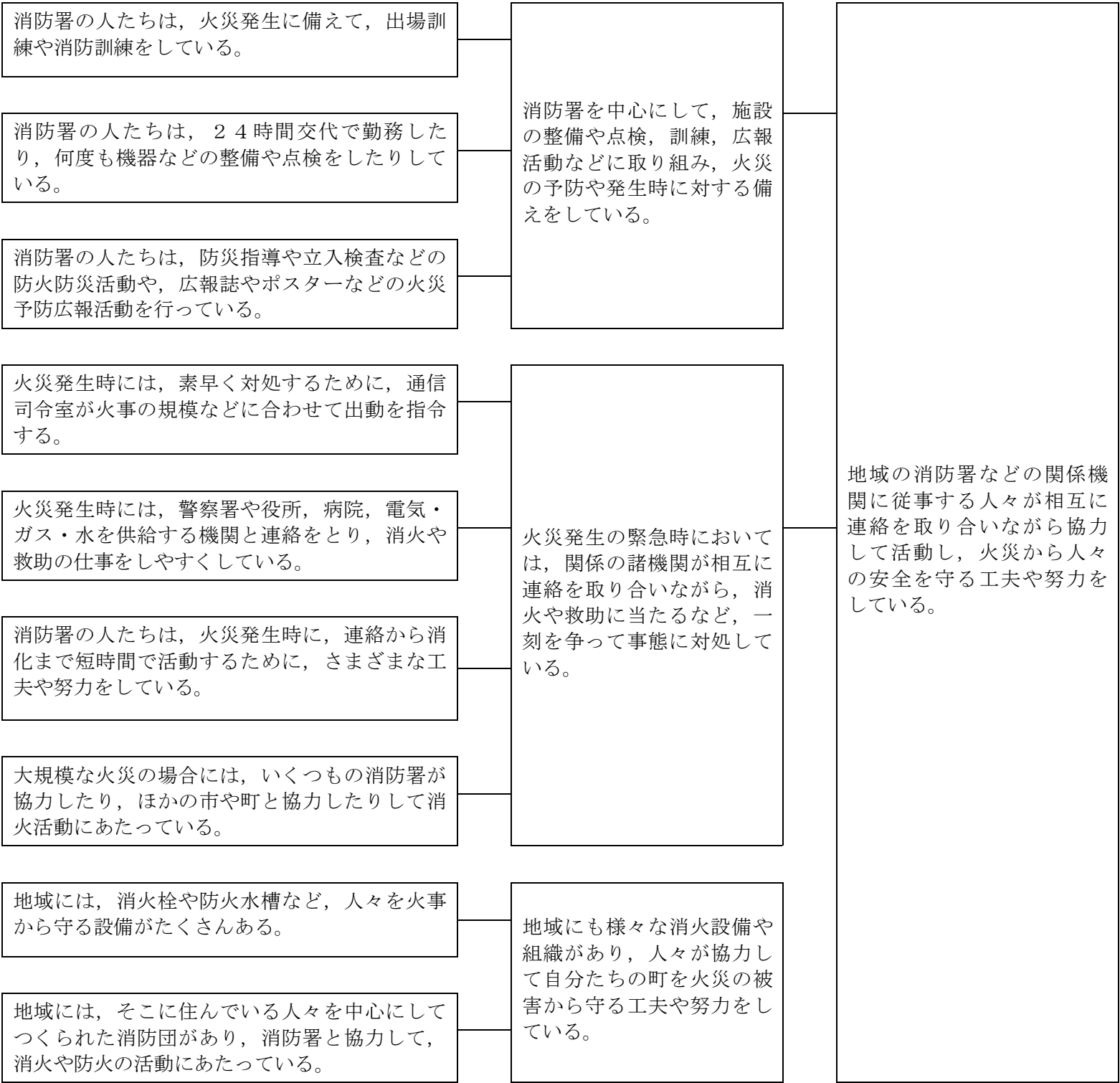
4. 単元の目標

- ・火災から地域の人々の安全を守る工夫について、消防署を見学したり調査したりして調べ、人々の安全を守るための関係機関の働きとそこに従事している人々の工夫や努力を考えるようにする。

5. 単元の評価規準

ア 社会的事象への 関心・意欲・態度	イ 社会的な思考・判断	ウ 観察・資料活用 of 技能・表現	エ 社会的事象についての 知識・理解
・火事が起きたときの関係機関の働きや、火事に備えた施設・設備に関心を持ち、進んで調べようとする。 ・火事への備えや関係機関の働きについての理解に基づいて、火事から暮らしを守る諸活動への関心を高める。	・地域社会における火事から人々の安全を守る工夫について問題意識を持ち、学習の見通しを持って追求・解決している。 ・調べたことをもとに人々の安全を守るための関係機関の働きと、そこに従事している人々の工夫や努力を考え、適切に判断している。	・消防署の見学や署員への聞き取り、資料等からわかったこと、学習の経過などを工夫してわかりやすくまとめ、友だちに伝えることができる。	・火事から暮らしを守る関係機関の働きと、そこに従事している人々に工夫や努力について理解している。

6. 単元構想図



7. 単元指導計画（全10時間）

段階	回数	時数	学習活動	評価規準				評価規準	評価方法
				関	思	技	知		
出会う	1 かけつける消防車	1	・身近で起こった火災について、知っていることを発表し、さらに知りたくなったことを話し合う。	◎				・様々な火災の原因や消防署について知ろうとする意欲を持つ。	ノート 発表
決定する	2 こわい火事	2	・火事による被害や原因を調べ、消防署を見学する計画を立てる。			◎		・グラフから火災の被害状況や原因を比較したり、関連させたりしながら読み取ることができる。	発表 ノート

	3 消防署 の仕事 と働き	3 4	・消防署の係の人の話から、火災がないときの設備の点検や整備，訓練などの仕事について話を聞く。 ・消防署の、係の人から一日の過ごし方について話をきく。	◎			・火災を防ぐための消防署の取り組みや，消防署の人たちの努力をとらえることができる。	ワークシート
		5	・聞き取りをしてわかったことをまとめる。		◎		・聞き取りでわかったことや思ったことをわかりやすくまとめ表現することができる。	ワークシート
追 究 す る		6	・火災にすばやく対処できる通信司令室の役割や関係諸機関との協力について考える。			◎	・火災から人々の命や財産を守るため，関係諸機関が連絡を取り合っていることを考えることができる。	ノート発表
		7	・火災発生の連絡から消火作業まで，短時間に活動を行う消防署の人々の工夫や努力を考える	◎			・消防隊員が緊急時に機敏に行動するための工夫や努力をこれまでの学習内容と関連させて考えることができる。	ノート発表
		8	・消防署では，大火災に備えて近隣の市町村と協力体制をとっていることや，大火災にそなえた消防支援隊や国際救助隊の協力的な活動について調べる。		◎		・大きな火災に対し，素早く対処できるように，近隣の市町村と協力体制があることや，消防団が緊急時に対処するために活躍していること，また，国際的な協力体制があることを理解する。	ノート発表
		9	・自分たちの地域にある消防設備や消防団の働きを調べ，地域における防火や消火の仕組みを考える。	◎			・自分たちの地域にある消防設備や消防団の働きを調べ，地域における防火や消火の仕組みを考えることができる。	ノート発表
交 流 す る	4 まとめ	10	・これまでの学習をふり返り，わかったことや思ったことを自分なりの方法でまとめる。	○	○	○	・命や財産を守るために自分たちにできることを話し合い，火災防止に対する自覚を高めることができる。	行動観察 テスト

8. 本時の学習

- (1) 本時の目標

・自分たちの地域にある消防設備や消防団の働きを調べ，地域における防火や消火の仕組みを考えることができる。
- (2) 評価規準の観点

◎・地域における防火・消火の仕組みを考えることができる。

【社会的な思考・判断】
- (3) 準備物

指導者・・・消防団の方
- (4) 本時の展開

過程	学習活動・発問及び予想される反応	資料	学習への支援（○） 指導上の留意点（・）	評価基準
導入 課題	①前時までの学習を想起する。 ○ 消防団についての疑問を出そう。 ・5分以内にかけつけるためにどんな工夫をしているのだろうか。 ・どのように火事の連絡がはいるのだろうか。 ・屯所の資金はどこからでているのだろうか。 ②課題を確認する。 消防団と消防署は，どんな違いがあるのだろうか。			
	③疑問に思ったことを消防団の人に聞く。 ○消防団の人に疑問に思ったことを聞いて答えてもらおう。 ・自分の仕事を持ちながら，消防団の仕事もしてい	・消防団の方に直接話を聞き，疑問を解決していく。 ・消防団としての仕	○消防団の方に疑問に思ったことを答えていただく。	

	る。 ・ボランティアである。 ・つねに防災無線を聞いている。 ・消防署→役場の総務課→消防団長・	事や苦労を聞くことで、消防署との違いやなぜ消防団がいるのかを考えられるようにしていく。		
中核課題	⑤消防団のはたらきを考える。 ○消防団と消防署は、どんな違いがあるのだろうか。 ・消防署の人は、それが仕事だけど、消防団の人は別に仕事がある。 ・消防署の人が帰っても現場にのこる。 ・地域の夜回りをする。 ・大雨の時など川の見回りもする。		○聞き取りしたことをもとに考える。	
	なぜ、消防署があるのに消防団をつくっているのだろうか。			
	・自分たちの地域を自分たちでまもりたいから。 ・消防署の人たちも来てくれるけど、地域に消防団があれば安心だから。 ・みんなで協力して火事を起こさないようにしたり、消火活動をするのが大切だから。 ○消防団の人に残った疑問を聞いてみよう。	・消防署、消防屯所、消火栓の位置を書いた地図を提示し、なぜ、消防団があるの考える。 ・様々な苦労がありながら、消防団で活躍している思いを聞くことで、自分たちの地域を守るしくみをとらえさせる。	○ワークシートに自分の考えを書くために思考の時間をとる。 ○さらに疑問を聞くことで理解を深める。（消防団の方に答えていただく。）	
まとめ	⑥学習のまとめをする。 ○今日の学習で、わかったことや疑問に思ったことをノートに書こう。 ・自分たちの力で安全を守ろうとしていることがわかった。 ・自分たちの地域は自分たちで守りたいから、消防団をつくっている。		・地域の防火・消火の仕組みに着目させる ○まとめることのできない児童には、自分の疑問を想起させ、消防団の人の話と関連づけて考えさせる。	A：地域における防火や消火の仕組みを2つ以上考えることができる。 B：消防団は自分たちの地域は自分たちで守る目的で置かれていることを考えることができる。